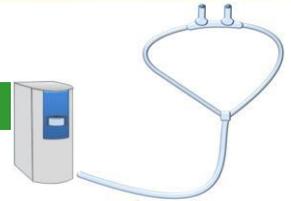


「調べて、広めて、市民を守る。」

酸素吸入中の火災

「火事を知る！」



火災事例

病気のため、自宅で酸素吸入していた患者さんが、たばこを吸おうと火のついたマッチを口元付近に近づけました。すると突然、マッチの火が激しく燃え、経鼻カニューレ（酸素吸入用のチューブ）に燃え移ってしまいました。炎は瞬く間に経鼻カニューレを伝って延焼したため、この患者さんの着衣が燃え、重症のやけどを負いました。

火災になるまで

酸素は燃焼を助ける働きをします。酸素吸入によって、この方の口元付近は酸素濃度が高い状態となっていました。そこにマッチの火を近づけたために激しく燃え出し、火災になったと考えられます。

ご紹介した事例はマッチの有炎火でしたが、たばこのような小さな火種でも激しく燃え出すことがあるので大変危険です。

出火のイメージ（再現実験）



① たばこ火を点ける



② たばこの火が経鼻カニューレに着火



③ 経鼻カニューレの火が着衣に燃え移った状況

「身を守る！」

酸素吸入中は火気を近づけない！



患者さんだけでなく家族や介護関係の方々も、
ご本人が**火気使用されないよう徹底**することが大切です！



大阪市消防局 予防課(調査鑑識)
<<<Survey & Investigation>>>